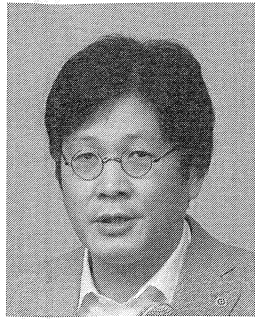


# 荒川会長が再任

## NEPアーチ基幹商品に

NEP工業会

NEP工業会(会長 荒川崇氏)は、第49期通常総会を画面で開催し、7月3日までに2019年度事業報告・収支決算報告、令和2年度事業計画案・収支予算案などが原案通り可決された。任期満了に伴う役員改選では、荒川崇会長の再任を決めた。



荒川会長

### ●総会

総会の書面開催にあたり荒川崇会長は「会員の皆様には、日頃よりNEP工業会の運営にご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。本来であれば6月18日に総会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面による決議とさせて頂きました。」

「一子」は、3件の特許が成立すると共に、初めての実績を北海道において上げる事が出来ました。関係者の皆様には、改めて御礼申し上げます。令和2年度の事業内容は総会議案にご提案した通りですが、新たに有力な3社を正会員に迎えると共に、基幹商品の追加や理事会の体制強化を図り、会員の皆様にとって魅力ある工業会を目指します。

尚、当工業会のチャーターメンバーである九コンの下瀬博貴会長が本総会を以て顧問を退任される事になりました。長年に亘る当工業会への貢献に対し、この場を借りて御礼を申し上げます。また、秋に予定していましたフランスへの海外視察研修は現在の状況を鑑み、当面の間延期する事にしました。秋の研修会において京都で皆様に再会できることを祈念いたします」と挨拶した。

総会では2019年度事業報告・収支決算報告、令和2年度事業計画案・収支予算案をはじめ、会員規定・会則改訂、会員資格の承認・役員改選などの議案審議が行われた。

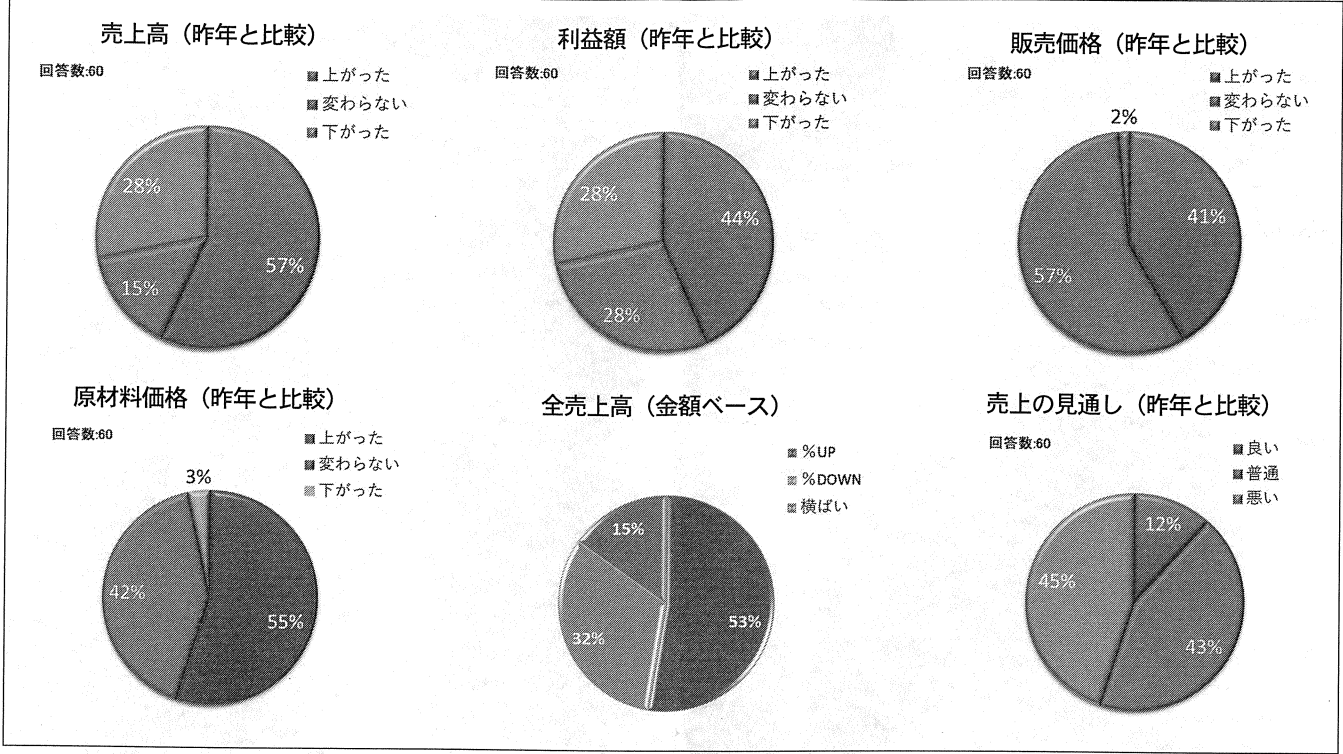
### ●昨年度の主な活動と今年度の事業計画

NEP工業会では昨年度運営、商品開発の両委員会とニューウォールコン部会の3組織を中心に事業を展開した。同工業会が開発した多分割式ブロックアーチ橋「NEPアーチ」の初施工が昨年7月に北海道雨竜町で行われた他、3件の特許を取得。また初施工に向けて、設計計算ソフトのバージョンアップを実施。さらに雨竜町の実績に基づいて、製造・設計・施工マニュアルを作成し今年1月、大阪で研修会を開催するなど、実りの多い一年となった。

今後は運営委員会が各種研修会の企画立案、各種アンケート調査の実施・まとめと公表、適宜会員規定・会則の見直し、プロジェクト活動の支援などを進める計画。商品開発委員会では、NEPアーチの拡販、会員社保有の新技術・新工法などの募集、その他(新商品開発ニーズの受付、取扱商品の追加・破棄など)の3本柱をメインに事業を展開する計画。ニューウォールコン部会では昨年度に引き続き、宅地擁壁製造認証工場品質要領書の改定についての説明会を秋季研

### ●資材価格アンケート、NEP短観

【資材価格アンケート】普通セメントの平均価格は1万5177円で、昨年度の調査からは平均で641円(5.7%)、昨年春の調査から808円(7.1%)下落した。平均価格が1万円を超えたのは平成23年春の調査から18期連続。今後の見通しでは「上昇する」が29社、「横ばい」が24社、「下落する」はゼロだった。鋼材(D10)は昨年度秋の調査から1.9円(2.4%)



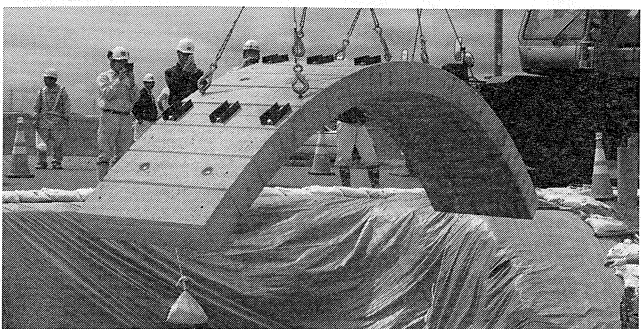
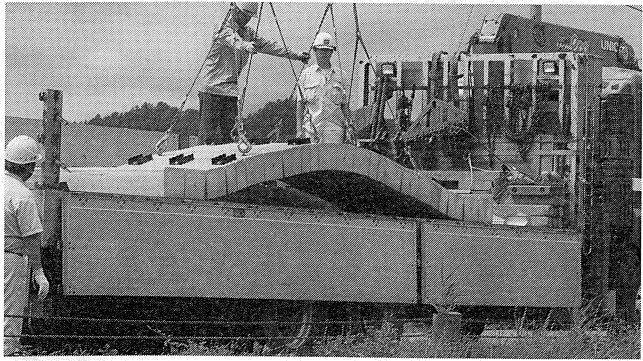
下落し、重油は17.8円(23.2%)の大幅な下落となった。

また、一昨年度の調査で初めて2万5000円台まで上昇した10トン車満載時の50km運賃は、今回さらに2万7000円台まで上昇。燃料費は下落したものの、依然として輸送費の高止まりがコンクリート製品企業の収益を圧迫している。

【NEP短観】▽昨年度で売上高が「上がった」57%、「下がった」28%「変わらない」15%▽利益額は「上がった」44%、「下がった」28%「変わらない」28%▽販売価格は「上がった」41%、「下がった」2%「変わらない」57%▽原材料価格は「上がった」55%、「下がった」3%「変わらない」42%▽2019年10月から2020年3月決算の売上高は「増えた」53%、「減った」32%「横ばい」15%▽今後1年間の売上見通しは「良い」12%「普通」43%「悪い」45%だった。

【NEPアーチ】中小橋梁の架け替え用に開発した、アーチブロックと基礎ブロックから成るプレキャストアーチ橋。

アーチブロックをクレーン等で吊り上げて両端の基礎ブロックに据え付け、現地でアーチ橋を構築する。欧州で使われているコンクリート製のアーチ橋を参考に、日本国内の規格に合うよう2011年に開発に着手、8年の年月をか



NEP アーチ

けて実用化にこぎつけた。ブロックスカルパート橋に比べ、掘削工に伴う水替えの必要がないので施工手間が掛からない。また、湯水期など季節も選ばないので工期短縮や省力化に効果があり、コスト削減に寄与する。設計にはFEM(有限要素法)解析を採用して十分な安全性を確保した。

メインのアーチブロックは、台形の迫石(せりいし)ブロックを専用のテキスタイルで連結した蛇腹状の部材で、クレーンで吊り上げるとフラットな状態からアーチ形状となり、基礎ブロックに設置するとそのまま自立するので短期間でアーチ橋を構築することができる。1ユニットあたり迫石ブロック

修会に合わせて実施することとしている。

同工業会はNEPアーチの施工実績ができたことを受けて、今期を「NEPアーチ拡販スタートの年」と位置付けており、NEPアーチを基幹商品に登録したのに続き、経済性についての資料を早急に取りまとめるなど、販促用の各種資料(設計関係資料、製作関係資料、施工関係資料、販売関係資料等)の整備を図る方針。必要に応じてスベック物件のフォローやサポートも実施する考えだ。また、足元の公共事業の受注環境が厳しさを増している事に加え、コロナ禍で先行きの不透明感が増している事から、全国ネットワークのNEP工業会の強みを生かして、新たな商品や工法等の募集を行い状況の打開を図るとしている。

3〜5個で構成しており、運搬車両の積載制限に合わせやすいのも特長。大型トラックが入れない山間部や狭小な市街地にも対応する形状の変化で重心が移動するアーチブロックをバランス良く吊り上げるため、滑車式の吊り具も新たに開発した。

初施工物件は会員社の會澤高圧コンクリート(北海道)が、雨竜町発注の排水路橋架け替え工事(平成30年度基幹幹線排水路取付橋改修工事)に納入したもので、内空幅4600×内空高(ライズ)1000mm×幅5000mmで、耐荷重は14トン。わずか90分ほどでアーチブロック5基の設置が完了し、水路に美しいアーチが架かった。